

視 察 調 査 報 告 書

委 員 会 名	議会運営委員会
参 加 者	委 員 長 荻野 秀範 副委員長 井町 圭孝 委 員 磯部 亮次 鈴木 静男 畑尻 宣長 杉山 智騎 井村 伸幸 柴田 敏光 加藤 義幸
視 察 日 時	令和4年5月9日（月）13：30～14：55
視察先・概要	栃木県宇都宮市 人口：514,873人 世帯数：233,372世帯 面積：416.85 k m ²
視 察 項 目	「オンライン委員会条例改正」について
視 察 概 要	1 委員会条例改正の経緯と内容 ・コロナの感染者が多く、何らかの対策が必要であるため、オンライン委員会条例改正前である令和3年2月に議員協議会をオンラインで行ってみた。 ・災害の発生や感染症の蔓延防止等で委員の参集が困難である際にオンラインによる会議を開けるように早急に整備が必要であるため、令和3年3月に議会制度検討会議から議長にオンライン委員会例規の改正を進めるように申入れがあり、各会派代表者会議や議会運営委員会での協議を経て、3月定例会最終日に委員会条例の一部改正を行った。 ・条例改正の素案は事務局が作成し、各会派で検討した結果、特に異論はなく、全会一致で可決した。 ・プロジェクトチームの検討や全国議長会から検討結果の報告を受けて、令和4年3月に執行部の出席に関する規定を追加するなどの一部改正を行った。 ・細かい内容については、「オンライン委員会参加マニュアル」末尾に記載の「オンライン委員会の会議の招集手続等を定める要綱」に記載している。上記条例の一部改正を受けて、現在、要綱についても見直しを行っている。 2 今後の方向性 ・コロナや台風などの災害がないと使えないため、現時点では開催実績がない。 ・今後、実際にオンライン委員会を開催した際に課題の発生が想定されるため、ルールの整備が必要なところについて適宜見直しを行っていく。

所 感 ※ 視察しての感想 や岡崎市への提 言など	・非常に短い期間で条例を制定しており、その行動力に驚かされた。ただ、まだオンライン委員会を開催していないとのことで想定できていないことも多いと感じた。要綱にも幅を持たせた表現が使われ、状況に応じて委員長等が判断する場面が多くなりそうである。通信トラブル発生時の対応（回復までの待ち時間等）やオンライン参加時の環境の確認など、できるだけ明確に要綱には盛り込みたいと思う。 ・まず、環境的に本市と同様の、Zoom、LINE WORKS、SideBooks を使用しており、説明がわかりやすかったことは、大変よかった。宇都宮市において条例の必要性を認めたのは、コロナ禍が要因であったことは予想どおりであった。しかしながら、諮問委員会の提案から僅か 20 日で決議されたことに驚きを隠せなかった。オンライン委員会の招集等の手続などは別に定める要綱に規定されている。実際に運用するにはまだ課題があると考えられている。オンライン委員会も、まだ実際には開催されておらず、今後開催することがあれば、その都度要綱も変更して行くようである。この条例ができるにあたり、背景には本市よりも随分早くタブレットを導入しており、慣れた環境があることが功を奏していると感じるところもあった。現在のルールによると、タブレットでも自分のパソコンでもどちらを利用しても会議に参加できる形になっているが、セキュリティの面で本当に大丈夫なのか実証されていないような気がする。また、コロナ禍以外の例えば災害時に本当にオンラインでの会議が可能なのかは疑問であるが、条例がなければオンライン会議も開催できないため、条例をしっかりとっておくことは大切と感じた。 - あと、実際にオンライン会議を開催していかないと、本当に必要なときに問題が出ると思われる。デモでもよいので、実際に行っていく事も必要に感じた。 ・オンライン委員会条例を改正してマニュアル要綱を作成し、災害発生後においても委員会が開催できるように必要な条項整備や対策を実施していることは、宇都宮市議会としての危機管理意識の高さに感銘を受けた。岡崎市議会としてはオンライン委員会の開催に向け検討を行っているが、宇都宮市においても条例改正後まだ開催実績がなく、今後開催した際に必要に応じて適宜見直しを行うとの事であり、本市議会としては、検討段階でマニュアル要綱やオンライン機器環境等を作成する際には、事前検証をするためにも試験的にデモ委員会を数回開催して不具合の洗い出しを行う事を提案したい。 ・コロナ禍で昨年からのオンラインによる委員会の開催ができるよう環境整備に着手され、早い段階で問題意識を共有化して進められたことは、私たちの議会に少し欠けている点だと感じた。それと、まずは行ってみて、不具合を改善していくという感じを受け取ったが、少し危うさを感じるころでもあった。本市において、これから、決めなくてはいけない点が多々あるが、非公式な打合せなど、試しにオンラインで行うことも大事であると感じた。
---	--

	・「災害にそなえたテーマ」からスタートし、まずは、委員会でもオンラインを導入できる環境を整えたもの。見切り発車的な感覚もあるが、まずは環境を整備し、それからテスト運用しブラッシュアップしていくという手法も、スピード感があり、見習うべきところである。本市としても他市の事例などから学び、早急に環境を整えるべきであると考えている。しかし、実際に使えるものにするべきであるため、模擬やテスト運用を行いながら、議会・議員が理解した改正を行うべく尽力する必要がある。 ・オンライン委員会を開催するに当たり、議会側だけでなく説明を行う執行部側への配慮も、通信状況なども含めまだまだ課題があるものと感じた。一朝一夕での開催にはいかず、まずは、実務的な縛りとしての要綱を定めトライ・アンド・エラーにより都度、改正していくべきとも感じた。また、オンライン委員会参加のためのマニュアル作成は必要と感じる一方で、マニュアル中にある“よくある質問”の項目は都度改定していくとの説明であったが、事務局側の負担増にもつながることであり、必要に応じて外部委託なども検討してはと感じた。 ・宇都宮市では、委員会をオンライン開催できるように整備を進めているという事であった。実績はまだないので、今後課題が出てくることが予想される。災害発生時、感染症による会議出席が困難な場合のオンライン参加を考える。本市も今後早い段階での検討を行う事が必要であると感じた。また、出産時・介護などによる会議出席が困難な場合はオンラインで参加できるようにするのかどうかという事は、宇都宮市も今後の検討課題であるという事であった。本市も他市の状況を把握し、対応策を考えるべきであると考えている。 ・昨今の大災害の発生、感染症の蔓延防止等で議員が会議に参集することができない場合を想定して、オンラインで会議を開くことができるように条例を改正し、令和3年4月1日より施行しているが、1年経過した令和4年5月現在、オンライン委員会等一度も開催されていないとのことである。それゆえに、模擬会議等重ねて課題等の整理をすべきと考える。私が気づいたこととして、オンライン会議の傍聴の可否、会議中家族等の第三者との接触は不可とのことであるが、その確認が出来ないおそれが高く賛否を問うときに、第三者の考えが反映されてしまうおそれがあること、画像がフリーズしたときの対応等、現状では、オンライン委員会開催はハードルが高いと感じた。
委員長の総括	例規の改正を進められた。1か月で進められたのは緊急性の表れであると思われるが、今後、開催した際に問題等が発生することが想定され、適時見直しなどが必要となってくると感じた。本市においても、現在、部会で検討を進めており、オンライン委員会の手法としての必要性は理解をするところであるが、機材や環境面の検討も十分進めていく必要があると感じた。

